

## 野國總管甘藷功労賞の受賞者

沖縄県の嘉手納町は、1605年に甘藷（サツマイモ）を中国から日本に初めてもたらした野國總管生誕の町であり、甘藷発祥の地でもある。野國總管が中国から琉球へ持ち帰った甘藷は、總管の出身地である野国村から儀間眞常の指導奨励によって琉球全土に普及し、琉球の人びとの命を長く支えてきた。

その後、甘藷は様々なルートを経て全国へ伝播し、特に食糧難時代には多くの人びとの命を救ってきたほか、今日では健康食品としても多大な貢献をしている。

嘉手納町・野國總管まつり実行委員会では甘藷伝来を記念して、これまで50年ごとに祭典を執り行ってきた。2015年は、甘藷伝来410年の節目の年に当たった。そこで嘉手納町では、2055年の甘藷伝来450年祭へ円滑に引き継いでいくため、新たに10年ごとに記念事業を実施することとなった。

2015年11月15日に、野國總管甘藷伝来410年記念事業として「野國總管甘藷功労賞授与式及び甘藷フォーラム」が、嘉手納町のかでな文化センターで盛大に挙行された。

今回の野國總管甘藷功労者として、小林仁氏、伊波勝雄氏、郷原茂樹氏の3名が受賞された（写真1）。以下、甘藷振興に貢献された3氏の主な功績を紹介する。なお、

甘藷フォーラム終了後、約100名の参加者を得て、祝賀情報交換会が和やかに開催された（写真2）。（狩谷 昭男 記）

小林 仁（こばやし まさし）

茨城県つくば市

昭和11年7月生(79歳)

### 略歴

東京大学農学部農学科卒業。中国農業試験場、北海道農業試験場次長、熱帯農業研究センター所



小林 仁氏

長、農業研究センター所長。財団法人植物調節剤研究協会会長、国際熱帯農業研究センター理事、国際農業研究指導センター理事、茨城県農業研究顧問団長。農学博士(東京大学)。

### 功績

中国農業試験場及び九州農試指宿試験地に20年間勤務し、直播用の「ナエシラズ」、食用の「ツクモアカ」や「ベニアズマ」など多数の品種育成に参加。このうち、「ナエシラズ」は直播栽培用として世界で初めて開発された品種で、その育種理論をまとめ学位を取得した。

1967年に米国ジョージア大学へ留学。当時、甘藷の系統発生や起源地については、メキシコ起源説が有力視されていたが、甘

諸の交配不和合群に関するデータ及び中南米地域への踏査から南米北部に位置する海拔千m前後のアンデス山麓を甘藷発祥地とみなした。この地域から甘藷の遺伝資源として数系統のいものほか、中米～南米北部の海岸には甘藷祖先種が分布しており、その種子も多数導入した。著書に「サツマイモのきた道」などがある。

国際熱帯性いも類学会（ISTRC）で、甘藷育種研究の先端情報を3回発表。また、2000年につくば市で開催された第12回大会では、実行委員長を務める。さらに、国際農業機関であるCIAT（コロンビア）及びISNAR（オランダ）の理事を務めた。

#### 賞罰

瑞宝中綬章（平成19年）、紅白綬有功章（平成22年大日本農会）。

#### 伊波 勝雄（いは かつお）

沖縄県嘉手納町

昭和14年1月生（76歳）

#### 略歴

東洋大学経済学部経済学科卒業。公立小中学校長。嘉手納町教育長2期8年。沖縄県町村教育長会会長。沖縄いもづるの会会長・顧問。



伊波 勝雄氏

#### 功績

郷土の先達野國總管の人物像の発掘と遺徳の継承・啓発に尽力したことが大きな功績である。『記念誌 野國總管』などをともに、その一端を紹介する。

人物像の発掘では、従来姓名不詳とされた説を位牌や系図から説き起こし、幼名を松、死後のおくり名を「總世健」と明示した。百姓の身分で進貢船の總管職に上り詰

めた艱難辛苦のようすや中国で栽培されていた甘藷を唯一野國總管のみが有用作物としての価値に目を付け、持ち帰った卓越した先見性を讃えている。帰国後は、栄達の道が開かれていたであろうが庶民の窮乏を救うために、甘藷栽培に心血を注いだ野國總管の心情を余すところなく描き出している。

遺徳の継承では、野國總管が体現した国際性、進取の気性、社会貢献のもつ意味を吟味し、教育長の行政施策では世界に羽ばたく有為な人材育成の一貫として、町内の幼稚園、小中学校の子どもたちに英語とパソコン教育を推進した。

啓発活動では、野國總管がもたらした甘藷がどういうルートを経て、日本全国に伝播したか、7か年に渡る実地調査研究とともに、かつてない甘藷の伝播史を紐解く。また、嘉手納町、山川町、大津町、御前崎町の甘藷フォーラムでは、パネラーに加わり日本人の命の大恩人・野國總管の人と功績をアピールした。

#### 賞罰

沖縄タイムス教育賞（昭和56年）、沖縄県教育委員会感謝状（平成9年）、文部大臣感謝状（平成9年、平成17年）、全国町村教育委員会感謝状（平成17年）。

#### 郷原 茂樹（ごうはら しげき）

鹿児島県鹿屋市

昭和18年8月生（72歳）

#### 略歴

東京舞台芸術学院卒業。新聞記者を経て、作家活動。サツマイモレス



郷原 茂樹氏

トランの経営を契機に、芋菓子製造のフェ

ステイバロ社を設立。

## 功績

甘藷<sup>からいも</sup>を唐芋と呼び、唐芋の菓子づくりの原点を「良いケーキは良い唐芋から、良い唐芋は良い畑から、良い畑は良い土から」と、生産、加工、製造、販売の一大事業を展開している。その発想たるや他の追従を許さぬものがある。

唐芋の生産では、本社やケーキ工場に隣接する直営の2 haの農場で150品種の唐芋を自然栽培し、紫、白、紅色など多彩なカラー芋を作っている。近隣の農家にも唐芋づくりを奨め、地域の振興と活性化にも大きく貢献している。

加工、製造、販売では、芋の形や彩り、糖度、風味などを厳選し、最高の素材の確保に努めている。

この素材をもとに新鮮で美味しいケーキを作るため、レア（生焼き）にしたのが、唐芋レアケーキである。中でも、唐芋レアケーキ「ラブリー」は、航空機の客室乗務員などに人気を博し、3億5千万個を売りあげる。

2010年2月には、日本、中国、韓国の3か国の唐芋関係者に呼びかけ、唐芋の生産、加工、販売などの技術と情報を深く交流するために「東アジア唐芋友好協会」を創設。2年に一度の3か国持ち回りの東アジア唐芋友好ワークショップを開催し、唐芋を通じた国際交流を行う。このグローバルな発想と企業理念は、野國總管の遺徳である「国際性」を体現しており高く評価できる。

## 賞罰

なし



写真1 野國總管甘藷功労賞の受賞者と主催者の皆さん



写真2 “いも談議”に花が咲いた祝賀情報交換会